

全ての子どもが授業に参加できるように

～子どもが安心して学べるような教師のかかわり～

これらの子どもは、授業に参加できていると言えるでしょうか？



このような子どもは、「恥ずかしいな」「苦手だな」「分からないな」等と感じているのかもしれませんが。全ての子どもが授業に参加できるようにするためには、教師は、一人一人の理解に努め、子どもが安心して学べるように、「学びの土台づくり」に加えて、「学びの後押し」を重ねてかかわっていくことが重要です。



子どもが安心して学べるような教師のかかわり

学びの土台づくり



子どものありのままを受け止める



子どもが失敗しても大丈夫と思える
雰囲気をつくる

学びの後押し



子どもの試行錯誤を助ける



子ども同士をつなぐ

授業は多様な子どもが学ぶ場であるため、このようなかかわりを積み重ねていくと、集団の中で、子どもが自分に合う学び方を選択したり、共に学んだりすることにつながり、全ての子どもが授業に参加できるようになります。



子どもが安心して学べるような教師のかかわり

学びの土台づくり



子どものありのままを受け止める

(例)

- ・子どもの多様な見方・考え方を肯定的に受け止める
- ・教師が見取った子どもの得意なこと、できていることを伝える



子どもが失敗しても大丈夫と思える雰囲気をつくる

(例)

- ・「授業は失敗できる場」というメッセージを伝え、そのための約束事を共有する
- ・子どもが失敗したときや困っているとき等に適切にフォローする

予想される子どもの変容

- 緊張せずに「自分のままで大丈夫」と思えるようになります
- 自分の考えや気持ちを表しやすくなります



学びの後押し



子どもの試行錯誤を助ける

(例)

- ・必要に応じてヒントや見本を提供する
- ・取り組んでいることについての見通しを伝える



子ども同士をつなぐ

(例)

- ・子どもの考えを生かした発問を、全体に投げかける
- ・意見交換の時間を設ける等、他者の考えに触れる様々な機会を与える

予想される子どもの変容

- 「自分でできた」という達成感につながります
- 「楽しい」「役に立てた」という充実感につながります

